

202511.13 (木)
第 19 回例会
(通算3828回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ～ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために 手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 会員卓話「旅部報告会」(プログラム委員会)

次週例会 夜間例会「創立 89 周年にちなんで」(親睦活動委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト ■ソングリーダー：西田 一博君
- 会員数 107 名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間 荒井 剛会長



皆さん、こんにちは。会長挨拶の前にふたつあります。ひとつ目、先週末に釧路プリンスホテルで補助金管理セミナーが開催されました。

ご出席いただいた方、どうもありがとうございます。この管理セミナーに参加しなければ、次年度の補助金事業が使えないことになりますので必須な管理セミナーでしたので、出席いただきありがとうございました。

また、地区補助金の事例報告にあたって当クラブの木下パスト会長より「地区補助金を活用した釧路湿原の探索事業」を過去 3 年間にわたって行った詳しい報告がされましたので、合わせて報告します。

もうひとつは、ロータリー財団からメールが届きました。当クラブに所属する全員が 1 年間に 100 ドル以上を年次基金に寄付をしていただいたことで、そのお礼のメールです。

クラブの全員が 100 ドル以上の寄付をしているクラブは、全世界のクラブの中の 6 パーセントしかありませんので、すごく貴重なことと思っています。この寄付金が補助金の財源になりますので、この点についても感謝申し上げます。

今日の会長挨拶ですが、今日は旅部の皆さんによるかなり気合が入った報告がされると聞いております。

旅ですから、私もワクワクしながら聞こうと思っています。

旅といえば皆さんは誰を思い浮かべますか。私は生きている時代ではないですけども、マルコポーロのことを思い出すかもしれません。実は、ロータリーでもマルコポーロと呼ばれた方がいるのです。ジェームス・ウィーラー・デイビッドソンです。この方は、いつの時代の人で、どんなことをやったのか、を報告したいと思います。

彼は、奥さんと小さい一人の娘さんを連れて 1928 年から 1931 年の 3 年にわたって世界を旅したのです。その 1928 ですからロータリークラブといえば、西洋を中心に発展して、すでに日本は設立されていたけど東南アジアではロータリークラブがまだできていない時代でした。そのような中、ジェームズ・ウィーラー・デイビッドソンさんがエジプトをはじめイスラエルのエルサレムにも行って、インドやフィリピン、ミャンマー・昔のビルマ、タイ、シンガポール、マレーシア、そして日本とかを渡り歩いて 12 カ国で合計 23 のロータリークラブを創立したと言われております。

当時の金額で 25 万カナダドルを私費で費やしたと言っておりますが、これがどれくらいなのか正確には分かりませんが、6 億円くらいに換算されると言われるくらいのお金をかけて、ずうっと回ってロータリーのことを普及して、特に東南アジアの各国でロータリークラブを設立されたと話題になっております。

なぜ、この方を紹介したかということ、その 3 年間の

旅行記が日本では『ロータリーの友』として日本語で書かれています。英語で書かれた『ザ・ロータリアン』という雑誌が1920年後半から増刊されているのです。これを今でもインターネット上のグーグル・ブックスで見ることができるのです。1930年代から3年間彼らが回った旅行記をデイビッドソンさん奥さんのリリアン・ドウさんが執筆して投稿し続けたのが今でも残っています。

その3年間をまとめて『メイキング・ニュー・フレンズ』という英語版のタイトルで、日本では発表されたわけではありませんが、日本語で言うと「新しい友をつくるために」という意味の本を発表されています。その本の序文、つまり本の冒頭に「この本をお薦めする」という文章を書いたのがポール・ハリスでした。その序文を見てみました。とてもいいことが書かれております。

当時のロータリークラブは西洋に多かったのですが、そういうわけにはいかない。もっとこれを広げよう。ただし、無理に広げるのではない、というのをジェームズさんは肝に銘じて地元の民間の人、政治家の人と交流を図って、地元の良さを取り入れてクラブを創立していたと序文に書いてありました。リリアンもいろいろ書かれていました。

そのリリアンさんの言葉を借りると、「彼はこういう信念を持っていました。欧米人のためのクラブでは決していない。各国の文化や社会に根差したロータリーを築くこと、これが彼の信念で、実際に彼は成し遂げています」。

日本にも訪れています。1931年3月に最後に横浜を訪れています。その当時、日本は「70地区」と言われていたのですが、その時のガバナーが米山梅吉さんでした。米山梅吉さんがジェームズさんは所用で来られなかったのですが、奥さんとお子さんを夕食に招いて、「大歓迎を受けました」と書かれています。ジェームズさんが言った言葉で、なるほどと思ったことがひとつありますので読み上げます。

「アジア人が私たちにとって奇妙で風変わりに見えても、私たちも彼と同じように見えると確信している。もし、彼らが私たちをいだかせるのなら、私たちも彼らをいだかせている。ただ、彼らはたいてい礼儀正しく、それを表に出していない。私たち西洋人は、人種間の交流においてしばしばアジア人の特徴である礼儀正しさに欠けている」と書かれていました。そういうことが書かれているものが西洋で1930年の冒頭に発表されています。それを、向こうのロータリアンは読んでくれたのではないかと思います。それをきっかけに、日本にはもともとありましたけれど、東南アジアにロータリークラブがひろがったという話を、今日の会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

幹事報告 横田 英喜幹事

幹事報告をさせていただきます。先週の第4回目の理事会の議事録が承認を受けましたのでホワイトボードに掲示しましたのでご覧ください。

ガバナー事務局から案内が来ております。「2026年度台北国際大会のご案内」では、来年6月13日から17日の間で、台北で国際大会が開催されます。登録関係では12月15日までに登録していただくとアメリカのドルで475ドル、これを過ぎると575ドルと金額が上がってしまいますので、参加される方につきましては早めのご登録をお願いします。

同じ日程に合わせて、6月14日にRI理事主催の親善朝食会、2500地区のナイトがありますので、それも合わせて締め切りの期限などが設定されておりますので参加される方は幹事までご連絡をいただければと思います。

■本日のプログラム■ 会員卓話「旅部報告会」

プログラム委員会 藤井 敬亮委員長

本日は旅部の報告会となります。これから、過去3回にわたる旅部の報告を行いたいと思います。旅部の杉村部長と旅部の部員たちによる珍道中をお楽しみください。

よろしくお願いいたします。

『会員卓話「旅部報告会」旅部部員』

旅部 杉村 莊平部長



皆さん、こんにちは。一応、部長を仰せついております杉村です。部長というよりも創業者というかカウンター的な感じですけど、よろ

しくお願いいたします。

旅の詳細については、有能なメンバーたちから報告があると思います。僕からは旅部に至った経緯をご説明したいと思います。

皆さんがご存じのとおり、ロータリークラブというのは毎年地区大会があります。北見、帯広、釧路、旭川などに行ったりして有意義で楽しく帰って来るわけですが、その出物の次のハードルが急にブラジル、アメリカ、イギリスとなってしまうのがロータリーなのですね。そういう仕組みになっていて、僕が入会して10年くらいが経ったところに、みんなで国内の小旅行でも、1泊2泊くらいで道外の所に行きたいなと思っていたことがありました。

そうこうしているうちに会長を拝命して、ロータ

リーを楽しむにはどうしたらいいかを考える期間をだ
いぶいただきました。難しい話は置いておいて、僕が
思うロータリーの楽しさというのは、例会に出て、み
んなの顔を見て心を豊かにさせてもらう。もっと突き
詰めて言うと、毎週木曜日の午前中に「今日はロータ
リーだな。どうしようか、行こうかな」というときに、
「無理してでもみんなの顔を見に行こう」と思えるか
どうかだと思っています。

その根本の「楽しもう！」をつくる大事なことのた
めに「じゃ、旅行部をつくってみよう」のが目的でし
た。いざ、初めてみますと、ロータリークラブのさま
まの悪い面が多少あぶりだされてきたのです。何かと
いうと、毎年2月にその年の企画会議をやるのが恒例
になりました。これにみんなが集まってくるのですが、
話をまとめる気が全くなくて、自分が行きたい所は「俺
はあそこに行きたい」「ここだ」「あそこだ」と言うの
ですが、ひとが言う「遠いからいやだ」「寒いから
いやだ」「暑いからいやだ」とか、まったく話をまと
める気がないのです。

わが事務局の素晴らしいところは、このまとまらな
い意見を持ち帰って、後日、一生懸命にプログラムを
行って旅行代理店顔負けの2泊3日のスケジュールを
作るのです。

すると、いざ当日、集合してみると、予定表を事前
に回しているのですが全く見ていないのです。「とこ
ろで、これからどこに行くのだ」、少し歩き始めると「い
や、疲れた」だの「早く酒を飲みたい」など、まあま
あ、お山の大将がいっぱいいるのです。お山の大将ら
しさが前面に出てくるわけです。

そうやって3回目が終わりました。この3回を振り
返ると、これから新しく創部してほしいと思いますが、
新しいクラブを作るということは、鍛錬と忍耐力が必要
だと感じております。これこそ、ロータリーからい
ただいた利他の精神、奉仕の精神を鍛える場だと思い
まして日々、修練をしているところです。

この一番修練をしているのが事務局を一心に預かっ
ている市橋君です。もし、旅部が100周年まで続く
のであれば、ぜひ市橋君を100周年で表彰してあげ
てほしいと、心からそう思うのです。どうぞよろしく
お願いいたします。

最後になりますが、2回目と3回目に吉田潤司さん
が夫婦で参加されております。多少、年齢差もある中
で、お付き合いづらいところがあるかもしれないの
ですが、ご夫婦で仲良くつつましく、気軽に参加して
いただいております。その姿を見ていると、メンバー
から「僕も70・80になったらこのように年を取りた
いな」という意見が出ておりまして、こういうところが
年齢制限のないロータリークラブの良いところ、
もっと言うところ、釧路クラブのいいところだと思っ
ております。旅部がなければ、パストガバナーと気軽に接す

ることができないのではないかなと思っています。

皆さんが誤解しているかもしれませんが、行ってい
るメンバーが旅部員ではなくて、基本的には釧路クラ
ブの全員が旅部のメンバーですから、そこに声をかけ
て、たまたま参加している人が「今年行ったメンバー」
ということ。なにか、旅部だけでやっているような
感じがありますが、皆さんが旅部のメンバーですから、
お山の大将のいいところも悪いところも見たい
人、ロータリーを一生の宝としたいはぜひ参加してい
ただければと思います。

では、これからメンバーで発表させていただきます。
よろしくお願いいたします。

旅部 市橋多佳丞君



皆さま、こんにち
は。それでは杉村さ
んの「下僕1号」の
市橋から、まず3回
行われました旅部の
1回目と2回目を皆
さまにご説明をさせ
ていただきます。それでは皆さん、スライドをご覧に
なってください。

1回目は、2023年11月3日から11月5日まで、
富山県は五箇山、岐阜県白川郷、翌日に金沢市近郊を
回る旅を行ってまいりました。

行程の1日目は、観光タクシーで乗り合わせて移動し
ながら、五箇山と白川郷を回ってホテルへ戻ってきま
した。先ほど皆さまには集合写真の一覧を回覧させて
いただきましたが、1回目、2回目、3回目と分けて
おりますので、合わせてご覧になってください。

最初は世界遺産の五箇山、日本昔話に出てくるような
日本の田園風景というような三角屋根の場所を回りま
した。その後は白川郷、こちらは皆さま方がよく写真
等々で目にする場所かなと思います。白川郷のほうが
三角屋根の向き方が大体統一されておりまして、面積
も広いということでこちらのほうが有名な場所となっ
ております。

そして、金沢に戻って釧路ナイトを行うのですけれど
も、釧路ナイトの最中、何名かがいなくなって、どこ
に行ったのかということ、杉村部長と小野寺君がそこ
で出会った女性をナンパしています。そんなことをしな
がらみんなでやいやいとやっていたら、また人数が少
なくなりました。今度はまた違う場所でマダムたちを
口説いている脇さんと天方さんがおりました。「どん
どん人がいなくなっていくな」というような楽しい
夜を過ごしました。

行程の2日目です。赤くなっている所は、当初は予定
をしていない所になぜか急遽回ることになった所なの
です。スケジュールがとんでもないことになって、せっ

かく組んだスケジュールの半分ぐらいがパーになっておりました。



1カ所目は金沢城の跡地に行きました。続いて、皆さんご存じの日本三名園の兼六園に行きました。ちょうど11月1日から兼六園で名物の

「雪吊り」という木を上から吊り上げて雪の重さから守るための加工が行われているのを見ることができたのです。いいタイミングでここを訪れることができました。

続いて、どこで誰が聞いてきたのか分からないのですが、日本銀行の金沢支店に500年のタブノキというご神木があるのですが、そこで「このタブノキから落ちた葉っぱを、地上に落ちる前に手に取って、それを自分の財布に入れておくと金運が上がる」というお話があることを旅の途中で誰かが聞きつけて、「そこに行くぞ」となりました。私も葉っぱを入れているのですが、金運はまだ上がっておりません。

続いて、本当に金まみれなのですが、これもどこかで誰かが聞きつけたのですが、日本三大金運神社といわれる「ソフトバンクの孫さんがお参りした金劔宮」がありました。急に「そこに行きたい」と皆さんが言い出しました。皆さんはお金持ちなのですが、まださらにお金が必要だと一生懸命お参りしている杉村さんをしっかり撮っておきました。ぜひ皆さん、まだお金が必要であれば、ぜひ行っていただければと思います。

その他、旅の思い出写真ということで工藤さんが写真を撮っているところ、顔出しスポットで一生懸命真面目な顔をしている浅川さんや小野寺さん、昼飯の所でいい気分になっている脇さんや杉村さん、旅の途中で疲れ果ててしまった天方さんや小野寺さん。夜はこういったお店で楽しく地元の方々と交流をしながら1回目を終了させていただきました。

第2回目です。去年は、香川県、岡山県、兵庫県と少し移動距離が長すぎました。1回目で気を良くしたので「これぐらい、行けるだろう」と思ってやってみたら大変なことになりました。

1日目、「香川といえbaumどんだろう」とうどんを食べて、丸亀城、金刀比羅宮と行ってきたのです。先ほどありましたけども吉田パストガバナーご夫妻にも参加をいただきました。セルフうどんのお店でみんな腹ごしらえをした上で、現存12天守のひとつ、丸亀城に行っていました。

日本一高い石垣の城ということはどういうことかというと、ここの標高を見てください。やや300m水平移動して、やや50m上がるというとんでもない傾斜

の所なのです。それは日本一高い石垣の城ですから当たり前のお話なのですが、そこを私は分かっておりませんでしたので、「まあ、行きましょう」と吉田パストガバナーと敦子夫人を引き連れて行きました。スタートのときは皆さんいい感じなのですが、坂の途中からどんどんとパストガバナーも遅れ気味になりながら後ろのほうに。こう見ると、たいしたことないのですが、実際の傾斜はものすごいことになっております。最終的に登城できたのが4名だけとなりました。今度は、金刀比羅宮のほうに移動しました。ここでも同じようなことが起きました。参道口から御本殿まで785段の石段を上る所になっております。標高を見ていただきますと、やや300m移動して、やや80m近く上る場所になっております。「下から行くのは無理だな」となって、途中にレストラン『神椿』があるのですが、そこがちょうど500段目の位置で、地元の運転手さんの力を使って、ここからズルをして登らせていただきました。200数十段を登って皆さんでお参りをしてまいりました。

2日目は、いい天気で瀬戸大橋を皆さんで回ってきました。

続きまして、倉敷市の美観地区、ここも文化的な場所として、白壁の蔵屋敷とか趣のある景観、ならびに倉敷デニム、倉敷帆布と倉敷ブランドの発祥の地。また、大原美術館やアイビススクエアという文化施設もあったのですが、時間の都合上、滞在することもできず、ここで倉敷デニムを買った石井さんが一番喜んでおりました。

今回の旅の最大の所です。備中松山城、天空の山城ということで、こちらも天守が現存する唯一の山城ですので当然、傾斜もとんでもないことになっております。そういうことを事前に知らなかったもので、皆さんで登山のような感じで登ってまいりました。皆さんの状況がだんだん尋常ではなくなってきました。吉田パストガバナー、本当にご迷惑をおかけしました。登った後は、石井さんの眉毛が両サイドしっかり垂れ下がるような状況になっております。脇さんも疲労困憊の顔をされております。

途中、『高梁ロータリークラブ創立100周年の記念碑』に偶然出会いました。そこでは、記念写真を撮っただけというお話でした。

最後は桃太郎のモデルとされる吉備津神社を巡らせていただきました。こちらの長い回廊がありました。これは重要文化財となっている場所でした。

これが1日目、2日目の懇親会の状況で、このように御朱印をとる人もいました。夕食の場の懇親の集合写真となっております。

第3回目です。これからは、実際に参加しました小野寺君と石井君から説明をしていただきたいと思います。

一応、工程だけを。1日目は、神社巡り、足立美術館、出雲大社、松江城。2日目は、たたらと刀剣館、石見銀山、物部神社と行ってまいりました。それでは発表をしていただきたいと思います。

旅部 小野寺 俊君



今回の島根の旅のご報告をさせていただきます。先ほど説明があったとおり、旅部は基本的に現地集合、現地解散です。皆さん好きなように

集まっていたくという会でございます。

今回の旅、本体の皆さんはきちんと9月11日の昼例会に出席した後、金曜日に出発で来られましたけども、不良会員の私や石井、村上の3人は全然関係ない日に本州に入っておりました。

私は、皆さんご存じのように鉄道オタクですので、私は木曜日の午後の飛行機で羽田に向かいました。昼間、関東地方で豪雨がありまして、飛行機は30分ぐらいの遅れだったのですが、鉄道界隈が混乱していて都内に入るのに2時間ぐらいかかりました。夕食です。いま写真を見せておりますけども、都内の知人が手配した千駄木にある鉄道居酒屋『せとうち』さんです。こちらは、1日1組限定というレアな営業形態でしたので、18時の予約を19時に変更してもらって、何とか行かせていただきました。店内はマスターの個人が収集した鉄道グッズで溢れていました。去年は石破前総理が同じ鉄道マニア議員の前原代議士と対談企画で訪れたということで、右上の写真が前原代議士と石破茂さんのサインが書いておりました。私も同じ鉄道マニアとして応援したいのですが、どちらの方も政治の世界ではイマイチだったかなという感じはしております。

私もせっくなので釧網線の写真をプレゼントさせていただきました。こんな形で右の小さい額に入れて大変喜んでいただきました。料理がこんな感じのコース料理なのですが、左下のこれは食事の領収書なのです。切符の形をした領収書でいただきました。

本題の部分です。本当の目的は、夜の10時に出る寝台特急に乗って、岡山を目指す計画です。乗車したのは14両編成中10部屋しかない、一番高いシングルデラックスという部屋で、プラチナチケットとしても有名なのです。乗車一カ月前に釧路駅のみどりの窓口に並んで、ピッタリに購入できましたが、別に政治力は使ってはいません。本当に支社の窓口の方には感謝しかありません。

東京駅の次が横浜ですけど、通勤帰りの方々が大勢いるのを見下ろすというのはとても楽しく幸せになる気

分です。小田原の手前で、静岡が大豪雨のため1時間半以上、線路上で止まっていました。何とか動き出したと思ったら、岡山には2時間以上も遅れるということです。本来は停車しない新大阪で臨時に停車して、朝一番の新幹線に振り替えできるということで、5時半すぎに急いで新大阪で降りて新幹線に乗り換えて何とか岡山に。

元々のローカル線に乗る目的のところは間に合いました。旅が始まって、岡山から津山線で津山、姫新線で新見、備後落合から木次線に乗りました。津山では大きな写真があるのですが、鉄道博物館で地元の小学生とともに見学をしました。

その傍に「大谷踏切」がありました。かの有名なドジャースの大谷選手にあやかって名前が付けられたそうです、というのは作り話でした。

これは、石井、村上の両名が松江の宍道湖の夕日を見ながらの食事を楽しみながら、朝市を楽しみながら、そして夜の二次会の調査までしていただきました。本当にありがとうございます。というわけで、全員合流して前夜祭が無事終わりました。

第1日目です。ジャンボタクシー2台をチャーターして、2班に分かれて神魂神社にお参りです。参拝後は古墳らしきものを車窓で見ながら、帰り道にあった八重垣神社も参拝です。

ここの神社の前に怪しい売店で『子宝祈願』のグッズのお菓子をたくさん売ってしまっていて、思わず買ってしまったのです。いわゆる、あれな感じで、境内にも山神社という小さな社にも似たようなものが鎮座しておりました。

その後は足立美術館で美術品や日本庭園を見て、その後の昼食をはさんで、いよいよメインの出雲大社に向かいます。まず大社の手前にある稲佐の浜という所で、ここで毎年神在月に日本全国の神様が降り立って、ここに神様が来て出雲大社に向かうという、いわば神様にとっては羽田空港みたいなところなのかなと思います。ここの砂を採取して出雲大社に奉納すると縁起が良いということで、皆さん少量ずつ持って帰りました。途中、出雲大社前のここは、「竹内まりや」の実家だそうです。記念写真だけを撮りました。木下宮司を通じて、正式参拝をしました。控室で説明を聞きながらお茶をいただいたのですが、あまりの話の長さに疲れ果てた杉村部長が包みごと茶菓子を食べかけたというのは、ここだけの秘密です。

宮司さんに先導されて、普段は外からしかお参りできないのですが、中に入って参拝をさせていただきました。中は撮影禁止だったので、残念ながらお見せできることはできません。本殿の裏手にあるスサノオノミコトが祀られている素戔社で先ほど採取してきた砂を奉納し、代わりに以前、他の方が奉納された砂を持ち帰って、家や会社の周りにまくと邪気が払われると

いうことで持って帰ってきております。先ほど皆さんに回覧した砂がその砂です。松江に戻って夕日の松江城を見てきました。ということで1日目のご報告になります。2日目は石井君にバトンタッチをさせていただきます。ありがとうございました。

旅部 石井 孝行君



不良会員の石井です。私からは9月14日、2日目のご報告をしたいと思います。奥出雲の『たたらと刀剣館』、たたら製鉄です。たたら製鉄というのは、『ふいご』を用いて砂鉄から純度の高い玉鋼（たまはがね）を生産する方法で、日本刀の原料として高品質な玉鋼をここ奥出雲で生産されていました。先ほど皆さんが見て回していた塊が玉鋼です。

この日は、月2回行われる日本刀鍛錬の実演を見学したのがこのスライドです。狭い室内に満員の見学者で、実際の炎を焚いているので30分程度でみんな満足して退散しました。

お昼は割烹『すぎ原』という所です。鉄の歴史村にたたずむ本格割烹のお店で、非常に美味しい昼食をとりました。山菜や京野菜中心の料理を堪能して英気を養って、いよいよ石見（いわみ）銀山です。世界遺産の石見銀山。16世紀17世紀のころ、世界の銀の三分の一をここで産出していたといわれています。この採掘坑道の入口の坑道のことを間歩（まぶ）というのです。龍源寺間歩を目指して車でここまで来られました。ここからずっと歩いてこの辺に坑道があるのです。片道2.5キロの山の中をてくてくと登って行きます。いよいよ旅部らしくなってきてやっと間歩入口に着きました。

中は非常にひんやりしていて、実際に手掘りですので、のみで削った跡をはっきり見る事ができました。もちろん坑道の中でも記念撮影は欠かせませんので、しっかり撮って、帰りも2.5キロの強歩遠足がありましたが、途中で神社好きの一行は佐毘売山神社を見つけました。ちょっと小高い上にあるので、この階段です。ここで皆さん、太ももの裏がパンパンになるハムストリング強化筋トレを実施してきました。

この後、物部神社に行きます。物部神社は島根県では出雲大社に次ぐ大きさの神社で本殿形式は春日造りになっております。ちなみに、出雲大社は大社造りという切妻屋根です。三角になっているこちらが妻と言いますが、『妻入り』で入るのが出雲大社です。伊勢神宮は神明造りといって、逆方向で『平入り』といって桁のほうから入るのです。プチ情報はこれぐらいにしておきます。

続きまして、須佐神社です。本日3回目の神社訪問、やや疲れが見えてきている一行です。ここは八岐大蛇を退治した英雄・スサノオノミコトを祀る社を一目見ようと意気込んだのですが、今年が30年に一度の遷宮に当たっていて社殿は工事中でした。

ただ、社殿裏の樹齢1300年というご神木を見学することができました。皆さんはこれにタッチして気を分けていただきました。ここで最後の記念撮影をして釧路ナイトへ向かいました。

釧路ナイトは、味処『明島』というとても美味しい小料理屋で、1人ずつ小鍋に出してくれた『大山どりのつみれ鍋』がとても美味しくて、お腹いっぱいになって二次会に足を運び、無事に皆さんケガもなく終了しました。

本日のニコニコ献金

■高橋 直人君 釧路しんきん100周年記念事業で孫の絵画が入選しました。5月のカレンダーに選ばれました。

今年度累計 126,000円